

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：27006

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇札幌市の共通指標から、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」児童や、「分からないことがあったときに、友達に聞くようにしている」児童の割合が85%程度であり、高いことが明らかになった。</p> <p>◇校内研究の視点である「他者との関わりを通して学ぶよさを感じられる教師の手立て」を重視して実践を積み重ねたことにより、協働的に学ぶ姿勢が育まれていることが共通指標から明らかになった。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標から、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」児童や、「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている」児童の割合が80%未満であり、高いとは言えないことが明らかになった。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果から、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていない」と感じている児童が多いという実態を捉えることができる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標の「自分が大切にされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が多い。授業や行事におけるブロック学年での交流や、子ども同士による学校行事後の相互評価（お手紙など）を通じて、自己肯定感や自己有用感が高まっていると考えられる。引き続き、「他者からの承認」を得られる機会の確保が重要となる。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
課題解決への意欲をもち、自ら学びに向かう力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) 研究主題「自ら学ぶ子を育む授業の創造」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> →一人一人が課題解決への意欲を高められる単元構成 →必要感のある対話場面の創出 →他者との関わりを通して学ぶよさを感じられる教師の手立て <p>(2) 指導と評価の一体化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> →資質・能力に視点を当てる教師の関わり →見通しをもって学ぶことによる自己調整 →子どもの学習改善・教師の授業改善のためのリフレクション
	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>①よりよい学級にするための学級活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> →もっとクラスを楽しくする係活動の推進 <p>②自分たちの生活を振り返る場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →「3つの『あ』」を活用した生活改善 <p>③よりよい学校にするためのクラブ・委員会活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> →実態に応じた取組の発案 →子どもたち自身で決定した活動の実現 →活動ごとのリフレクション
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇	

<本プログラムの実行に向けて>

